

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

1 会議名 多治見高等学校 学校運営協議会 (第2回)

2 開催日時 令和7年11月14日 (金) 14:30~16:00

3 開催場所 多治見高等学校 大会議室

開催にあたり、委員による授業参観を実施した

4 参加者

向井 貴彦	岐阜大学地域科学部教授
小口 英二	一般社団法人多治見市観光協会 COO (最高執行責任者)
小西 直哉	JR 東海多治見駅首席助役
坂崎 雄介	多治見青年会議所理事長
田口 直佳	「やくならマグカップも」原作ディレクター
中嶋 麻子	育友会副会長
村松 敦子	多治見市養正交流センター長
山内 英之亮	多治見市役所企画部企画政策課課長代理

学校側	増田 智至	校長
	川原 正史	教頭
	大野 和司	事務長
	桑原 華栄	教務主任
	石田 春彦	進路指導部長
	八橋 想	生徒指導部長
	鈴木 貴博	特別活動部長
	丸山 真	保健厚生・渉外部長
	山岡 隆太	記録

5 会議の概要 (協議事項)

- (1) 校長挨拶
- (2) 学校からの説明
- (3) 学校運営協議会委員からのご意見・ご感想等
 - ① 授業の感想
 - ② 生徒の実態について
 - ③ 学校運営について
 - ④ 学校評価アンケートの結果について
 - ⑤ 本校の将来像を考えるための提言 (本校に求めるもの) 等
- (4) 諸連絡

授業参観、学校からの説明を踏まえ、委員から(3)に関して意見を得た。

- 意見1：ICTを業務に活用する機会は増えており、環境も整いつつある。高校生のうちにICT機器を活用する機会を持つことは、大学への進学後や就職してからも役立つはずである。
- 意見2：ICT機器については、その活用が好適な場面もあれば、従来どおり身体を用いて活動することで、より高い教育効果が得られる場面もある。新しい手法が必ずしもよりよいものであるとは限らない。対象・環境に応じ、好適か否かを検証の上、実践に取り入れていくことが大切である。
- 意見3：参観した授業は活気に満ちており、生徒は主体的に活動し積極的に発言をしていた。自分が高校生の折とは大きく様変わりしており感動を覚えた。生徒の実態を踏まえた上の練りあげられた教材であり、生徒は興味・関心を持って授業に臨んでいた。
- 意見4：熱中症に対する対策がしっかりととなされており、安心できる環境である。
- 意見5：学校評価アンケートの結果についてさほど過敏になる必要は無い。一例として「いじめや差別を許さず、厳格に対応している」という項目に対して「わからない」との保護者回答が多いが、そもそもいじめ事案が発生しなければ、あるいは発生しても適切に対処されていれば前景化することではなく、良い評価を得ていると捉えることもできる。
- 意見6：スマートフォン等を活用する場面もなく、手書きでの解答を求めるのが大学入学試験の現状である以上、ICTの推進には限界がある。これまでに長きにわたって練り上げられてきた古典的な学びの在り方、教授法を軽視してはいけない。
- 意見7：AIを教育活動に取り入れることには、メリットがある一方で、デメリットも存在する。慎重な対応が必要だ。
- 意見8：大学という環境は高校ほど個々の学生に対する支援が手厚くはない。高校生活に馴染み難かった生徒が、高校での手厚い支援を受けて大学に進学しても、結果として中途退学に至るケースも多い。その点も視野に入れた上で、個に応じた適切な進路指導が必要である。
- 意見9：学校をよりよいものにしていこうとする職員の方々の姿勢が看取されて、好感を持った。

6 会議のまとめ

第2回学校運営協議会では、委員より学校運営に関する貴重な御意見を伺った。これらを今後の学校運営に活かしていきたい。